

Asia Indicators

発表日: 2025年7月25日(金)

ニュージーランド、物価は中銀目標域内で推移(Asia Weekly(7/21~7/25))

～インフレ率、コアインフレ率ともに加速するも、引き続き中銀目標域内に留まる展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/21(月)	(ニュージーランド)4-6月消費者物価(前年比)	+2.7%	+2.8%	+2.5%
7/22(火)	(ニュージーランド)6月輸出(億NZドル)	66.3	--	75.0
	6月輸入(億NZドル)	64.9	--	64.2
	(マレーシア)6月消費者物価(前年比)	+1.1%	+1.2%	+1.2%
	(台湾)6月輸出受注(前年比)	+24.6%	+22.9%	+18.5%
	6月失業率(季調済)	3.34%	--	3.34%
7/23(水)	(シンガポール)6月消費者物価(前年比)	+0.8%	+0.9%	+0.8%
	(台湾)6月鉱工業生産(前年比)	+18.65%	--	+22.10%
7/24(木)	(韓国)4-6月実質GDP(前年比・速報値)	+0.5%	+0.4%	▲0.0%
	(タイ)6月輸出(前年比)	+15.5%	+18.7%	+18.4%
	6月輸入(前年比)	+13.1%	+17.8%	+18.0%
7/25(金)	(シンガポール)6月鉱工業生産(前年比)	+8.0%	+7.1%	+3.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]～インフレ率、コアインフレ率ともに伸びは加速するも、引き続き中銀目標の域内で推移～

21日に発表された4-6月の消費者物価は前年同期比+2.7%となり、前期(同+2.5%)から伸びが加速するも4四半期連続でRBNZ(中銀)が定めるインフレ目標(1~3%)の範囲内で推移している。ただし、前期比は+0.54%と前期(同+0.93%)から上昇ペースは鈍化しているものの、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇基調が続いているほか、エネルギー価格の上昇ペースも加速するなど、生活必需品を中心とするインフレ圧力はくすぶる展開が続いている。なお、食料品やエネルギーなど物価の変動の大きい財を除いたコアインフレ率も前年同期比+2.7%と前期(同+2.6%)からわずかに伸びが加速しているが、インフレ率同様に目標域内で推移している。前期比は+0.39%と前期(同+0.47%)からわずかに上昇ペースが鈍化しており、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨NZドル高による輸入物価の下押しを反映して幅広く財価格が下振れする動きが確認される一方、雇用を取り巻く環境は厳しさを増しているにもかかわらずサービス物価の上昇ペースは加速するなど、物価を巡る動きはまちまちな様相をみせている。

22日に発表された6月の輸出額は前年同月比+10.0%となり、前月(同+7.1%)から伸びが加速している。ただし、前月比は+0.0%とわずかながら前月(同▲6.9%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じてい

るものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く動きが続いている。財別では、木製品関連や原油、機械製品関連の輸出が拡大する動きがみられるものの、主力の輸出財である乳製品や食肉、果物など食料品関連の輸出が軒並み下振れしている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けが大きく下振れするとともに、トランプ関税の余波を受ける形で米国向けも同様に下振れする一方、隣国のオーストラリア向けが堅調な動きをみせているほか、EU向けが底堅い動きをみせていることも輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+19.0%となり、前月（同▲7.6%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比は+4.1%と前月（同▲1.6%）から4ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大に転じるなど輸出と対照的に底打ちしている。財別では、原油や石油製品関連のほか、機械製品関連の輸入が下振れする一方、電気機械関連の輸入が大きく拡大していることが輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は+1.42億NZドルと前月（+10.82億NZドル）から黒字幅が縮小している。

図1 NZ インフレ率の推移

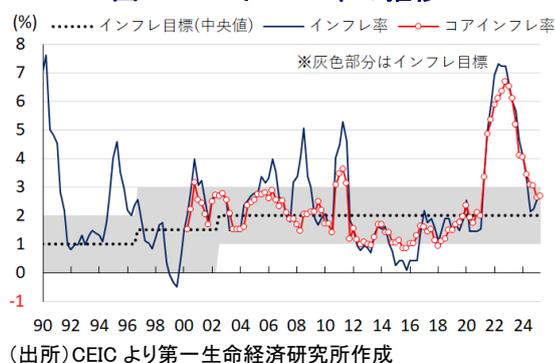
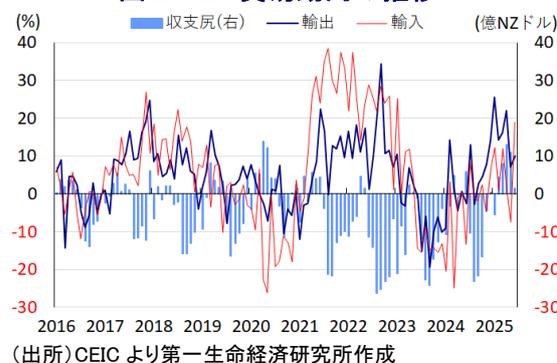


図2 NZ 貿易動向の推移



[台湾]～トランプ関税の余波で米国向け輸出受注に下押しも、中国本土向けや日本向けの堅調さが下支え～

22日に発表された6月の輸出受注額は前年同月比+24.6%となり、前月（同+18.5%）から伸びが加速している。前月比も+1.01%と前月（同▲0.35%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の受注底入れの動きに一服感がうかがえる一方、機械製品関連や化学製品関連といった素材・部材関連の受注に堅調さがうかがえるほか、縫製品関連の受注も底堅く推移している。国・地域別では、トランプ関税の余波を受ける形で米国向けの底入れの動きに一服感が出る一方、最大の輸出相手である中国本土向けや日本向けの堅調さが受注全体を下支えしている。

また、同日に発表された6月の失業率（季調済）は3.34%となり、前月（3.34%）から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比+0.0万人と前月（同▲0.1万人）から3ヶ月ぶりに減少の動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移している。新卒者を中心に失業が拡大する動きがみられるものの、既卒者を中心とする失業減少の動きが相殺する動きがみられる。一方の雇用者数は前月比+0.3万人と前月（同+0.7万人）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な動きをみせている。業種別では、公共投資の進捗の遅れや外需の先行き不透明感を反映して建設業で雇用調整圧力が強まるとともに、製造業や鉱業部門の雇用も弱含む展開をみせる一方、サービス業における雇用に底堅い動きがみられる。また、雇用環境の底堅さを反映して労働力人

口は前月比+0.3万人と前月（同+0.5万人）から2ヶ月連続で拡大しており、労働参加率も59.40%と前月（59.37%）から+0.03pt上昇するなど堅調な動きをみせている。

23日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+18.65%となり、前月（同+22.10%）から伸びが鈍化している。前月比も▲3.96%と前月（同+3.05%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、鉱物資源関連のほか、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連、電気機械関連で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、自動車や自動車部品関連のほか、医薬品や化学製品関連の生産に堅調な動きがみられるほか、縫製品や木製品など軽工業関連の生産に底堅い動きがみられるなど、分野ごとの生産の動きにバラつきが生じている。

図3 TW 輸出受注の推移



図4 TW 雇用環境の推移



図5 TW 鉱工業生産の推移



[シンガポール]～生活必需品のみならず、全般的にインフレ圧力が後退し、インフレ率は落ち着いた推移が続く～

23日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+0.8%となり、前月（同+0.8%）から2ヶ月連続で同じ伸びで推移している。ただし、前月比は▲0.08%と前月（同+0.69%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、生鮮品をはじめとする食料品価格が下落基調で推移しているほか、エネルギー価格も下落傾向が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.6%となり、前月（同+0.6%）から2ヶ月連続で同じ伸びで推移している。前月比も▲0.08%と前月（同+0.00%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨S Gドル高による輸入物価への下押しも重なり、幅広く財価格が落ち着いた推

移をみせているほか、サービス物価も同様に落ち着いた動きをみせるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子が見え始める。

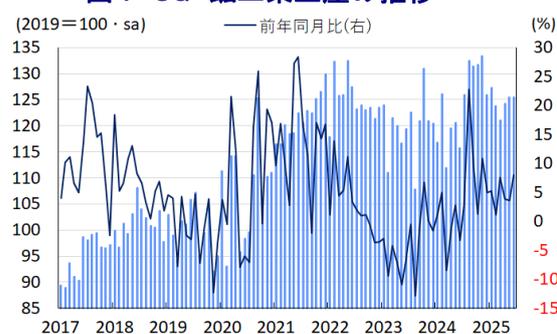
25日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+8.0%となり、前月（同+3.6%）から伸びが加速している。前月比は▲0.00%とわずかながら、前月（同+0.98%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。同国では、月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が上下に大きく振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比+24.78%と前月（同+3.50%）から2ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きを強めている。よって、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比▲0.79%と前月（同+2.39%）から4ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出るも、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。分野別では、精密機械関連の生産は堅調な動きをみせる一方、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、化学製品関連など幅広い分野で生産が下振れしており、トランプ関税をきっかけに外需に不透明感が高まっていることが足かせとなっている様子が見え始める。

図6 SG インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図7 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

【タイ】～トランプ関税にもかかわらず対米輸出は堅調に推移も、中国、ASEAN、日本向けなどで底入れが一服～

24日に発表された6月の輸出額は前年同月比+15.5%となり、前月（同+18.4%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、金をはじめとする宝飾品関連の輸出は堅調な推移をみせるとともに、電気機械関連の輸出にも底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連の輸出が下振れしているほか、鉱物資源関連や農産品関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。国・地域別では、トランプ関税の影響にも拘らず米国向けは堅調な推移をみせる一方、ASEAN向けや中国向け、日本向けなどで総じて輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+13.1%となり、前月（同+18.0%）から伸びが鈍化している。前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出と対照的に頭打ちの動きを強めている。輸出の先行き不透明感の高まりを反映して、機械製品関連や素材・部材関連など幅広く輸入に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は+10.62億ドルと前月（+11.16億ドル）から黒字幅が縮小している。

図8 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～エネルギー価格の下落でインフレ率は5年強ぶりの伸びに鈍化も、物価を巡る動きはまちまち～

22日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+1.1%となり、前月（同+1.2%）から鈍化して2021年2月以来の伸びとなっている。前月比は+0.07%と前月（同+0.07%）と同じ伸びで推移しており、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇しているものの、エネルギー価格は落ち着いた推移をみせるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月（同+2.1%）から鈍化して9ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.07%と前月（同+0.15%）から上昇ケースが鈍化しており、エネルギー価格の下落を受けて輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨リング高による輸入物価の下押しも重なり、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、堅調な雇用環境を反映してサービス物価に上昇圧力がくすぶり、物価を巡る動きはまちまちの様相をみせている。

図9 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。